

編集後記

新研修制度がスタートした。研修医の給料も施設によって大きな格差があると聞く。生き残りを懸けて医師確保に必死なのだという。研修医の時から医師を確保して将来の戦力にしようということである。一方、最近の医療訴訟の頻度は以前と比べて7倍ほどに跳ね上がっている。患者側の権利意識の変化もあるが、医師の対応のまずさもあることも否めない。新研修制度の目標の一つには、プライマリケアや救急医療に正しく対応できる医師を育てることである。患者側の立場から見ると、“安心”して診てもらえる医者になって欲しいということである。先ほどの給料の話を知ると何か本末転倒のような気がする。この7月に数人の研修医が研修先の病院から当大学に戻ってきた。理由は、1~2年先輩の医師による指導しか受けられないことなど、研修内容に不満があったようだ。今、研修病院に問われていることは、何をどう教えることができるか、すなわち、その病院の臨床実績や指導体制、指導医の特徴などを組み込んだ教育プログラムを発信することではないだろうか。若い先生方には、是非とも知識だけでなく多くのことを学んで、患者の“安心”という視点からも自分を見つめ直す習慣をつけて欲しいものである。臨床経験や症例報告は、症例から自分が学んだこと、教訓的なことをまとめたものである。自分で実際に経験した症例や学んだ事柄をまとめて書く癖をつけ、どんどん投稿していただきたい。その際、読者を納得させ得るデータ、鮮明な画像、肉眼写真、病理写真などの提示は必須である。日常診療の中でこれらを大事にする習慣もつけていただきたい。またインフォームドコンセントや個人情報の保護などの倫理上のルールを守っていただくことは当然である。

(宮川 秀一)